

目次

- 2 一級河川岩崎川「矢巾町道岩崎川橋」開通
- 4 矢巾スマートインターチェンジ 着工式開催！
- 5 復興道路の新たな開通見通しが発表されました
- 7 第27回「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣表彰受賞者が決定！
- 8 高田松原津波復興祈念公園市民協働ワークショップを開催しました
- 9 砂防堰堤探検隊 ～地元小学生を対象に開催～
- 10 都南浄化センター1号汚泥焼却炉「火入れ式」
- 11 宮古港フェリー利用促進協議会が設立されました
- 12 岩手県台湾訪問ミッション
- 13 『国体おもてなしロード環境整備事業』を進めています！！
- 14 東日本大震災津波からの復興等に関する要望を行いました
- 15 中野技監が土木学会国際活動奨励賞を受賞しました！
- 16 県土整備部の職場紹介 ～道路建設課～
- 17 県土整備部の職場紹介 ～盛岡広域振興局土木部～

美しい 県土づくりNEWS



2016年
6月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第143号
平成28年6月30日発行
編集 県土整備企画室



希望郷
希望郷

いわて国体
いわて大会

いわて国体は10/1から（水泳競技9/4～）、いわて大会は10/22から開催されます

一級河川岩崎川「矢巾町道岩崎川橋」開通

6月17日（金）に、一級河川岩崎川に架かる「岩崎川橋」の開通式が盛大に執り行われました。平成25年8月9日の豪雨により岩崎川橋が落橋したため、岩崎川の河川改修工事にあわせて橋梁の架替工事を進めてきました。

岩崎川橋の開通により、約2年10ヶ月の間寸断されていた交通の動線が再び確保され、通勤・通学や日常生活の利便性の向上が期待されます。

引き続き、県ではJR東北本線上流の河川改修や下海老沼橋ほか3橋の橋梁架替工事を鋭意進めていきます。



新橋をバックに開通式の参加者全員で記念撮影（とふっち、わたまろくんと共に）

一級河川岩崎川「矢巾町道岩崎川橋」開通

河川課、盛岡広域振興局土木部

1 平成25年8月9日豪雨と床上浸水対策特別緊急事業

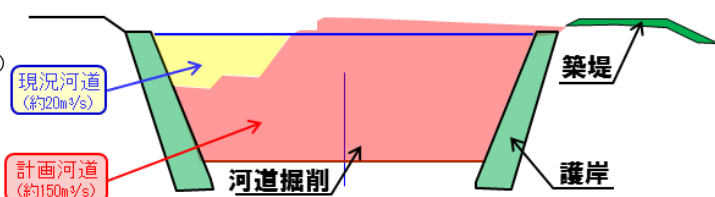
矢巾町に位置する一級河川岩崎川では、平成25年8月9日の豪雨により床上浸水96戸、床下浸水286戸の甚大な被害が発生しました。県ではこの被害を受けて、平成26年度より岩崎川における【芋沢川合流点～県道不動盛岡線】の区間L=2.64kmに「床上浸水対策特別緊急事業※」を導入し、河川改修工事を進めています。

※ 床上浸水被害が頻発している地域に関係する河川のうち、特に対策を促進する必要がある区間を対象として、治水手法の集約化、集中実施により概ね5ヶ年で再度災害防止対策を完了し、浸水被害を解消する事業



<河川改修計画>

- 計画延長：L=2,640m（芋沢川合流点～県道不動盛岡線）
- 事業期間：5ヶ年（平成26年度～平成30年度）
- 事業費：48億5千万円

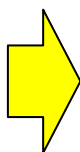


2 岩崎川橋の架替え

岩崎川に架かる岩崎川橋（町道橋）は、平成25年豪雨により落橋したため、平成27年4月より河川改修の計画幅に合せて、これまでの橋長7.4mを19.5mに改築する工事を進めてきました。



被災直後の岩崎川橋（旧橋）



完成した岩崎川橋（新橋）

この工事は、床上浸水対策特別緊急事業により**最初に現地着手**したものであり、着工から 435 日を経て、**平成 28 年 6 月 17 日**にようやく**開通式**を迎えることができました。

開通式は事業主体の岩手県、道路管理者の矢巾町の共催により開催したものであり、近隣の町立煙山小学校児童約 70 名による「**煙山小さんさ踊り**」で幕を開け、盛岡広域振興局長と矢巾町長による式辞、来賓の皆さまからの祝辞を頂いた後、局長より橋名板を揮毫して頂いた児童 2 名へ「**橋名板の進呈**」が行われました。その後、**煙山小吹奏楽部**約 40 名の**ファンファーレ**に合せた来賓によるテープカット、出席者全員による**記念撮影**、吹奏楽部を先頭に、出席者、近隣住民による**渡り初め**を行いました。

岩崎川橋の開通により、被災以降、**約 2 年 10 ヶ月の間寸断**されていた地元矢次行政区の交通動線が再び確保され、**通勤通学や日常生活の利便性の向上**が期待されます。

現在、河川改修工事は事業区間の概ね中央の JR 東北本線付近まで進捗しています。

今後、県では JR 東北本線上流の河川改修や下海老沼橋ほか 3 橋の橋梁架替え工事を鋭意進めていきます。



矢巾スマートインターチェンジ 着工式開催！

道路建設課



平成 28 年5月 28 日（土）に**矢巾スマートインターチェンジ**の着工式が盛大に開催されました！

●地元の皆さんを迎えての着工式

着工式は、矢巾町上矢次の事業用地内で行われ、事業関係者や地元の皆さまが出席し、矢巾北中学校の合唱部の皆さんによる素晴らしい合唱曲でスタートしました。鍬入れには、工事関係者のほか、地権者、矢巾北中学校の生徒の方々も加わり、工事の安全と地元の発展を祈願しました。

矢巾北中学校合唱部の皆さん



●矢巾スマートインターチェンジについて

スマートインターチェンジ（SIC）とは、通行可能車両を ETC 搭載車に限定した IC で、従来の IC より低コストでの整備・運用が可能です。矢巾 SIC は、矢巾 PA から高速道路の乗り降りが可能となります。

矢巾 SIC の整備によって、高速道路を利用する方の利便性向上はもちろんのこと、平成 31 年度に矢巾町へ移転予定の高度救命救急センター（岩手医科大学附属病院）へのアクセス向上による救命率向上や、岩手流通センターを中心とした物流、地域産業の活性化が期待されます。

現場状況



今後とも、**岩手県・矢巾町・NEXCO 東日本**で連携を図りながら取り組んでいきます！

復興道路の新たな開通見通しが発表されました

道路建設課

宮古盛岡横断道路「区界道路」は平成 32 年度開通予定

国の復興のリーディングプロジェクトとして、かつてないスピードで整備が進められている復興道路等について、平成 28 年6月8日（水）に東北地方整備局岩手河川国道事務所から新たな開通見通しが記者発表されました。

今回の発表では、**宮古盛岡横断道路「区界道路（8.0 km）」が平成 32 年度に開通**することが示されました。

復興道路については、既に約 139 km が供用されており、これまでに開通見通しが発表された区間と合わせると、**平成 32 年度までに約 260 km が供用となる見込み**です。

続々と開通が見込まれる復興道路ですが、**三陸沿岸道路の北部などでは、未だ開通見通しが示されていない区間が多く残されている状況**です。「復興・創生期間における東日本大震災からの復興の基本方針」に沿った着実な整備が進められるよう、引き続き**国、県、関係市町村等が一体となって取り組むことが必要**です。

【県内の復興道路等の開通見通し】

開通予定 年度	路 線	区 間	延長 (km)
H29 (2017)	三陸沿岸道路（田老岩泉道路）	田老北 IC ～ 岩泉龍泉洞 IC	6.0
	〃（宮古田老道路）	田老第 2 IC ～ 田老北 IC	4.0
	〃（山田宮古道路）	山田 IC ～ 宮古南 IC	14.0
H30 (2018)	三陸沿岸道路（久慈北道路）	侍浜 IC ～ 久慈北 IC	7.4
	〃（釜石山田道路）	釜石 JCT ～ 釜石両石 IC	5.6
	〃（釜石山田道路）	大槌 IC ～ 山田南 IC	8.0
	〃（吉浜釜石道路）	吉浜 IC ～ 釜石 JCT	14.0
	〃（唐桑高田道路）	唐桑北 IC ～ 陸前高田 IC (県内分：県境～ 陸前高田 IC)	10.0 (8.0)
	東北横断自動車道釜石秋田線（釜石道路）	釜石 JCT ～ 釜石西 IC	6.0
	〃（遠野道路）	遠野住田 IC ～ 遠野 IC	11.0
H31 (2019)	宮古盛岡横断道路（宮古箱石道路）	松山 IC ～ 根市 IC	3.3
	〃（都南川目道路）	宮古市下川井地区 田の沢 IC ～ 手代森 IC	2.0 3.4
H32 (2020)	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	宮古中央 IC ～ 田老第 2 IC	17.0
	宮古盛岡横断道路（宮古箱石道路）	宮古市藤原 ～ 松山 IC	4.0
	宮古盛岡横断道路（区界道路）	区界 ～ 梁川	8.0
		岩手県内の合計	121.7

※ IC 名称は、仮称を含む

第 6 回復興道路会議～岩手県～を開催

復興道路の早期全線供用に向けた取組の一つとして、**6 月 13 日（月）に国と県の共催により、関係機関の連携による情報共有や課題解決を目的とする「復興道路会議～岩手県～」を開催**しました。

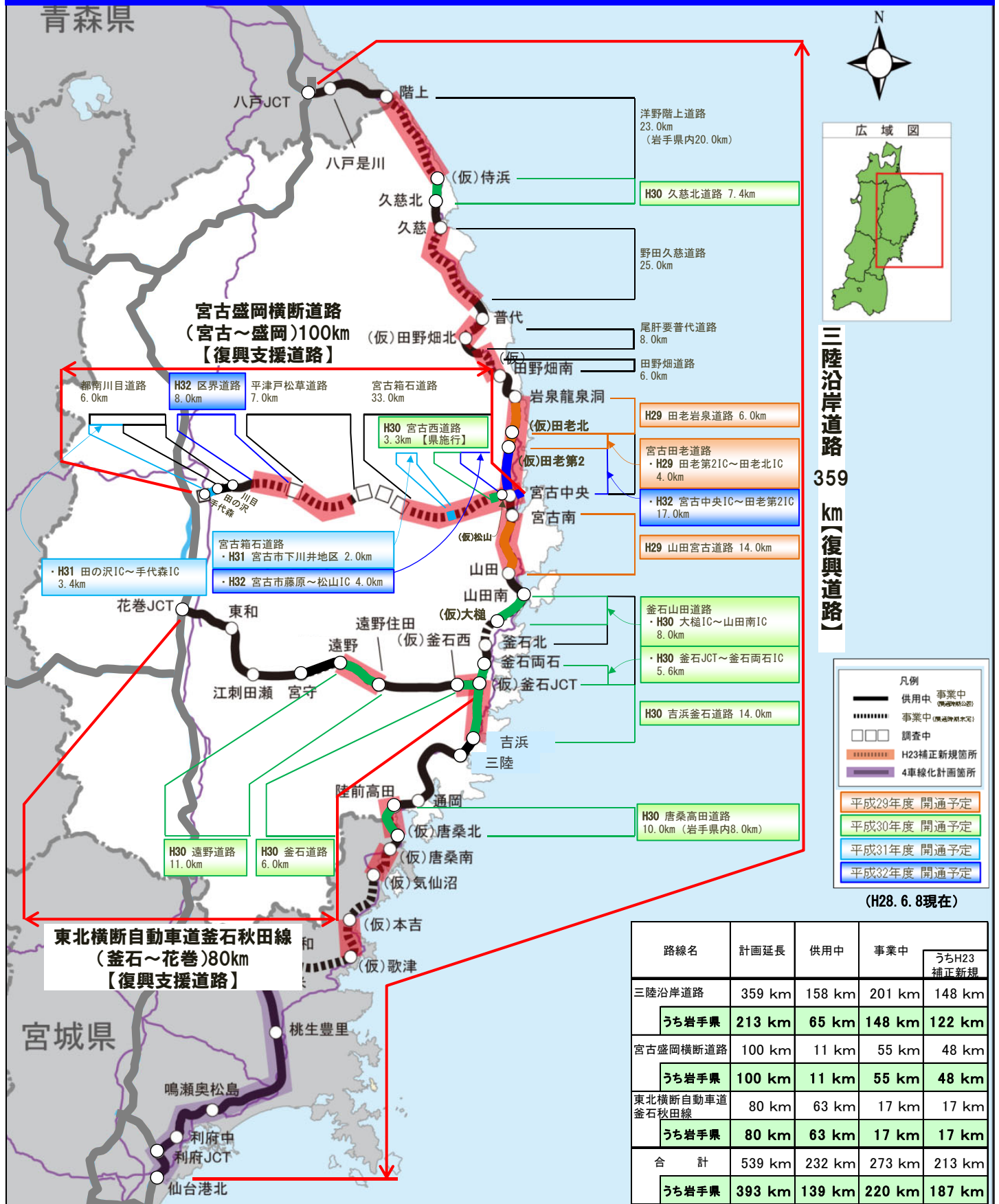
今回で第 6 回となる同会議では、事業進捗状況や「見える化」の取組状況の報告のほか、県と市町村から復興道路の整備効果や復興道路を活かした地域振興策などの事例発表があり、その後、意見交換を行いました。

県・市町村の事例発表では、**県内各地で進む新たなまちづくりや地域振興策は復興道路等の完成を前提**としており、**早期の全線開通が被災地の復興と未来に必要不可欠**であるとの意見が述べられました。



【第 6 回復興道路会議の開催状況】

岩手県内の復興道路等の概要



第27回「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣表彰 受賞者が決定！ ～岩手県内では5年ぶりに公園緑地のみどりの愛護団体が受賞～ 「ぎんがのもりの利活用を考える会」(花巻市)の皆様

都市計画課

県立花巻広域公園で花壇の整備などの活動を行う「ぎんがのもりの利活用を考える会(佐藤さよ子代表、会員数 15 人、花巻市)」が、今年度の「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣表彰を受賞されました。

これは、花巻広域公園での長年にわたる花壇の整備や、各種イベント運営への参加等、地域住民に緑と触れ合う場を提供し、公園の利活用と地域の緑化愛護精神の醸成に大きく貢献していることが評価されたものです。

なお、県内の公園緑地のみどりの愛護団体としては、平成 23 年度以来 5 年ぶりの受賞となりました。



活動の様子



カワツザクラ(河津桜)を記念植樹しました

「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣表彰は、花と緑の愛護に顕著な功績のあった民間の団体に対し、その功績をたたえ、国民的運動としての緑化推進活動の模範として表彰が行われているものです。

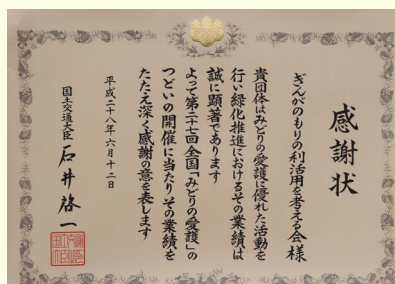
今年は全国で 130 団体が表彰され、岩手県内では、本県推薦の「ぎんがのもりの利活用を考える会」(花巻市) 1 団体が受賞されました。



式典会場の様子

6 月 12 日には千葉県立柏の葉公園で感謝状授与式が行われ、同会の佐藤代表と藤村さんが出席されました。

また、岩手県を代表して佐藤代表が記念植樹を行いました。



感謝状

受賞された団体から ひとこと

公園に来た方に花壇を見て四季を感じてもらえるよう宿根草を中心とした花壇づくりを行っています。

今回の受賞は、仲間の方々の協力への感謝とこれからの活動の励みになります。

**受賞された皆様、そして県内各地でみどりの愛護活動に取り組まれている皆様、
いつもありがとうございます。**

高田松原津波復興祈念公園 市民協働ワークショップを開催しました

都市計画課

県では、昨年度から高田松原津波復興祈念公園の基本設計の検討を進めています。その一環としてより良い公園とするための意見交換の場として、平成 28 年6月 15 日（水）に「市民協働ワークショップ～第3回 すぐ始められる取組みを探そう！～」を陸前高田市役所で開催しました。

今回のワークショップでは、前回（第2回）と同じく4つのテーマに分かれて、「誰が」「どこで」や「自分ならどうしたい」などの観点から、より具体的な議論を行いました。

意見交換のテーマ

- ・テーマ1 高田松原の利用のリスク軽減
- ・テーマ2 利活用（教訓の伝承）
- ・テーマ3 利活用（レクリエーション・交流）
- ・テーマ4 植栽・自然再生



テーマ毎の議論終了後、各グループの代表者による発表を行いました。

当日は陸前高田市内外から幅広い世代の方々にご参加いただきました。今後はこれまでの公園に対する御意見を基に、市民の方が管理運営体制にどのように関わっていくか、その具体化・実践化に向けて議論する場を検討していきます。

砂防堰堤探検隊 ～ 地元小学生を対象に開催 ～

砂防災害課

国土交通省では、昭和 58 年から毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、土砂災害の防止と被害の軽減を図るための各種活動を実施しています。

毎年、国土交通省岩手河川国道事務所、岩手県、八幡平市、滝沢市及び雫石町の主催により、土砂災害防止月間の一環として「砂防堰堤探検隊」を開催しており、次代を担う小学生が、八幡平山系における火山災害と土砂災害、地域の安全を支える砂防施設や災害から自らの身を守ることの重要性等について学習しています。

今年度の砂防堰堤探検隊は、6回開催することとしていますが、先陣として6月14日（火）に滝沢東小学校4年生の児童39人が出発しました。八幡平市「イーハトーブ火山局」で岩手山の噴火の歴史を学んだ後、岩手県立大学の伊藤教授によるコーラ噴火実験を体験しました。次に場所を移動し、焼走り溶岩流、小水無沢第1砂防堰堤と松川流路工を見学し、子供たちは真剣に砂防施設の重要性について学んだ様子でした。最後に主催者から児童の代表に修了証を授与し、無事に終了しました。

【八幡平山系の砂防堰堤探検隊の様子】



コーラの噴火実験に皆驚きです



職員の説明を真剣に聞く児童



砂防堰堤の大きさに圧倒されます



記念写真をパチリ！

都南浄化センター1号汚泥焼却炉「火入れ式」

北上川上流流域下水道事務所

都南浄化センター1号汚泥焼却炉は、供用開始から20年以上が経過して老朽化が著しいこと及び高温焼却が出来ないことから、平成25年度から更新工事を行ってきました。

既設焼却炉の撤去及び新たな焼却炉の据付が完了したことから、燃焼を伴う試運転の開始に先立ち、平成28年5月26日（木）に火入れ式が行われました。

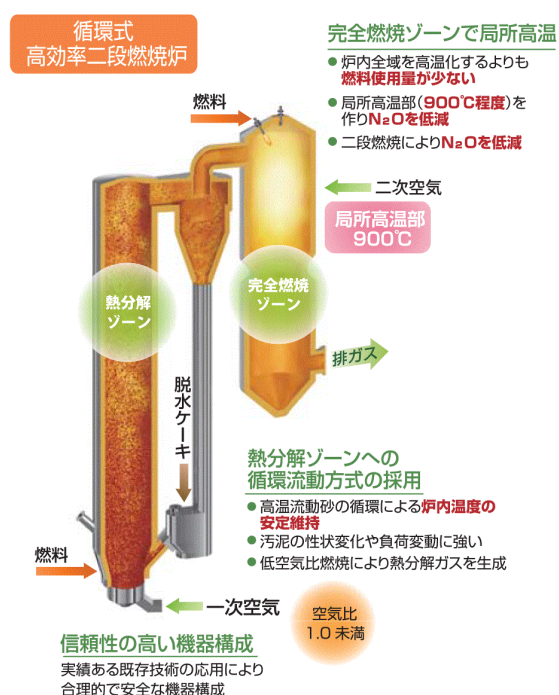
火入れ式では、施工者である(株)神鋼環境ソリューション水環境技術本部長及び北上川上流流域下水道事務所長による「火入れ」を行い、施工者、関係者と共に施設の安全を祈願しました。



新たな1号汚泥焼却炉は、処理能力が60t/日となり、既設に比べ20%能力がUPします。

また、国内では3例目、東北では初めてとなる「循環式 高効率二段燃焼汚泥焼却炉」の採用により、高温燃焼（850度以上）が可能となり、ダイオキシン類や一酸化二窒素などの温室効果ガスが低減され、地球温暖化対策にも寄与します。

今後は試運転調整を行い、9月頃の供用開始を予定しています。



宮古港フェリー利用促進協議会が設立されました

港湾課

平成 28 年6月9日（木）、宮古港フェリー利用促進協議会の設立総会が宮古市民文化会館で開催されました。

東日本大震災津波から5年が経過し、港湾関係施設の復旧が進むとともに、三陸沿岸道路や宮古盛岡横断道路等の整備が進められ、今後、宮古港から岩手県内各地、仙台、首都圏へのアクセスが大幅に向上することが期待されています。

このような状況の中、川崎近海汽船(株)は、北海道の室蘭港と宮古港を結ぶフェリー定期航路を平成 30 年6月に開設することを決定し、岩手県や宮古市など関係機関において、航路開設に向けて準備を行なっているところです。

本協議会の設立もその準備の一環として、フェリー航路の開設を宮古地域のみならず岩手県全体の発展につなげていくため、官民一体となって広域的に物流・観光両面の利用促進に取り組むため設立されたものです。

協議会には、宮古市、室蘭市及び室蘭商工会議所のほか国や岩手県、近隣町村、金融機関、経済団体などの関係機関から約 30 人が出席しました。宮古市の山本正徳市長は、「フェリー航路は本県で初の航路開設。両地域をはじめ北海道、岩手県の発展につなげるため、航路の利用促進に取り組む組織を立ち上げる」と挨拶しました。

また、総会では、会長に山本正徳 宮古市長を選出。セミナー開催によるフェリー航路の周知や、荷主となる企業へのセールス、両地域の観光物産 PR などの本年度事業計画を決定しました。

また、宮古市出身で札幌大学の千葉博正教授（交通計画）、市産業創造アドバイザーで岩手大学の今井潤准教授（基礎化学）の2人をアドバイザーに委嘱しました。

岩手県からは、フェリー施設の整備やポートセールスを担当する港湾課に加え、三陸地域の振興を担当する政策地域部地域振興室や、物流や観光振興を担当する商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室及び観光課も構成員となっており、一丸となり利用促進に取り組んでいきます。



会議の状況



山本正徳宮古市長（協議会会長）



札幌大千葉教授へのアドバイザー委嘱

岩手県としても、平成 30 年6月のフェリー定期航路開設に必要なフェリーターミナル等の施設整備を着実に実施するとともに、宮古市及び宮古港フェリー利用促進協議会と連携して、フェリーの利用促進に取り組んでいきます。



岩手県台湾訪問ミッション

空港課

台湾訪問ミッション概要

平成28年5月29日(日)から6月2日(木)の4泊5日の日程で、知事を団長とするミッション団が、いわて花巻空港発着の国際定期チャーター便を利用して台湾を訪問し、中華航空に対する定期便誘致活動や、台湾現地での本県の観光物産のPR等を行いました。



5/30台北市旅行商業同業公会表敬訪問



台湾訪問の期間に合わせて、台湾で人気の日本観光情報サイト「ラーチャーゴー」のアンテナショップで岩手観光物産フェアが開催



県主催による観光交流レセプションを開催、中華民国三三企業交流会江会長ほか政財界、旅行会社等から多くの方々に参加いただき、岩手を大いにPRしました。

台湾定期チャーター便について

春季定期チャーター便については、6月21日現在の販売状況は約90%と、過去3季と比較しても販売状況は好調です。皆様に感謝するとともに、秋季定期チャーター便(11月以降の運航を予定)についても御利用くださいますよう、お願い申し上げます。

『国体おもてなしロード環境整備事業』を進めています！！



県南広域振興局土木部

『国体おもてなしロード環境整備事業』とは？

国体競技会場への主要アクセス道路等における、国体マスコットの活用による機運醸成事業です。

主な取組の一つとして、沿線住民や自治会とともに視線誘導標に国体マスコットシールを貼付し、希望郷いわた国体・希望郷いわた大会開催への盛り上がり、雰囲気の醸成を図っています。

県内各地の道路に「国体そばっち」が出現中です！！

○水沢フラワーロード(一般国道4号(奥州市))

6月11日(土)に、『国体おもてなしロード環境整備事業』のキックオフイベントとして、一般国道4号 奥州市水沢区佐倉河地内の水沢フラワーロードの花植え作業時に、視線誘導標への国体マスコットシール貼付第1弾を実施しました！

当日は、奥州市民有志約600名が参加する花植えイベントに県南広域振興局が参加し、一緒に花植え作業を実施した後、水沢中学校の生徒、ケロ平とともに、国体マスコットシールの貼付作業を行いました。

シール貼付第1号は、水沢中学校宮田地区校外班の高橋一景(いっけい)君(3年生)でした！



シール貼付第1号！



記念写真



○(一社)岩手県建設業協会千厩支部青年部(一般国道284号(一関市))

6月24日(金)には、一般社団法人岩手県建設業協会千厩支部青年部様が毎年開催している一般国道284号の清掃作業に合わせて、千厩及び川崎地区内で視線誘導標への国体マスコットシールの貼付作業を実施していただきました。

千厩体育館が成年女子バレーの会場となっており、国道284号は会場への主要なアクセス道路です。

キレイになった道路と、「国体そばっち」が選手、参加者の皆様をお待ちしています！



対応してくださった皆さん、ありがとうございました！

次号でも、具体的に実施したイベント、取組について紹介していきます！

東日本大震災津波からの復興等に関する要望を行いました

～平成 29 年度政府予算の概算要求に向けて～

県土整備企画室

県では6月7日（火）に、東日本大震災津波からの復興と地方創生の推進に当たっての提言・要望活動を実施しました。

国においては、平成 27 年6月に平成 28 年度以降の復興支援の枠組を決定したところですが、東日本大震災津波からの復旧・復興に向けて、甚大な被害を受けた被災地では、必要な予算の確実な措置が必要であることから、「復興財源フレームに沿った確実な予算措置」、「依然として必要数に満たないマンパワーの確保」等について、達増知事から国等に対して提言・要望を行いました。

このうち、県土整備部関係については、「復興に必要な予算の確実な措置」、「直轄事業の着実な推進」、「社会資本整備総合交付金（復興）の復興の進度に応じた確実な予算措置」等について、高木毅復興大臣、石井啓一国土交通大臣等に対し要望を行いました。

県では、被災地の復興を完全に成し遂げるよう、引き続き、国に働き掛けていきます。

【主要要望内容】

- 復興に必要な予算の確実な措置
- 直轄事業の着実な推進と全面的な財政支援
- 社会資本整備総合交付金（復興）の復興の進度に応じた確実な予算措置
- 被災地の繰越手続の簡素化及び復旧・復興の進度に応じた予算配分
- 高田松原津波復興祈念公園への支援と国営追悼・祈念施設（仮称）及び重点道の駅「高田松原」の早期整備等
- 津波対策施設等に係る維持管理費等に対する財政支援



国土交通省への要望状況
（左から、石井啓一国土交通大臣、達増拓也岩手県知事）



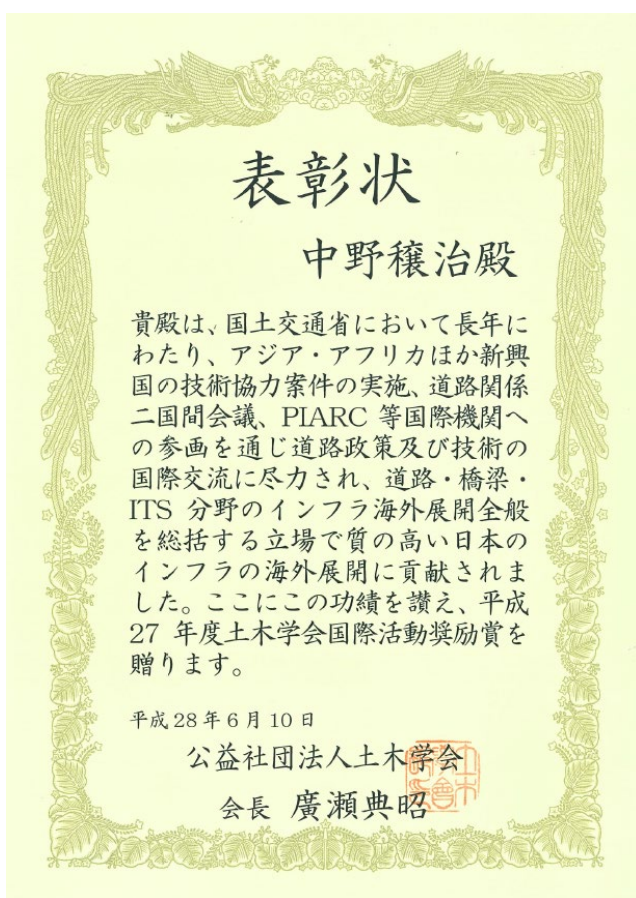
自由民主党への要望状況
（左から、細田博之幹事長代行、達増拓也岩手県知事）

中野技監が土木学会国際活動奨励賞を受賞しました！

県土整備企画室

平成 28 年6月 10 日に開催された公益社団法人土木学会第 102 回定時総会において、中野 穰治 岩手県技監が平成 27 年度国際活動奨励賞を受賞しました。

これは、約 25 年にわたり、国内外の社会資本整備に従事し、アジア・アフリカ他新興国との技術交流や海外の社会資本整備の支援に貢献したことなどが評価されたものです。



【主な表彰理由】

- 約 25 年にわたり、国内外の社会資本整備に従事し、アジア・アフリカ他新興国との技術交流や海外の社会資本整備の支援に貢献
- 対比協力案件の技術指導や PPP 手法の活用、簡易道路防災点検の試行など、フィリピン国の社会資本整備に貢献
- 新興国の技術協力案件の実施や、道路・橋梁・ITS 分野のインフラ海外展開に貢献



【公益社団法人土木学会とは】

- 「土木工学の進歩および土木事業の発達ならびに土木技術者の資質向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与する」ことを目指し、「学術・技術の進歩への貢献」、「社会への直接的貢献」、「会員の交流と啓発」の3点を柱として、さまざまな活動を展開
- 会員数は約 3 万 6 千人であり、教育・研究機関のほか、建設業、建設コンサルタント、エネルギー関係、鉄道・道路関係、行政機関、地方自治体など多岐の分野の職員が所属

県土整備部の職場紹介 No.2 道路建設課

県土整備部は、「県民から信頼される県土づくり」を目指して、各室課がそれぞれの役割を果たしています。
各室課が取り組む課題や業務を毎月ご紹介します。

組織の概要

県民の安全で安心な暮らしを支えるため、県が管理する国道や県道に係る改築整備に関する各種業務を行います。

また、東日本大震災津波からの本格復興を図るため、復興道路や復興支援道路等の整備を推進し、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークの構築を目指します。

計画調査担当

国が整備を進めている三陸沿岸道路等の復興道路の整備促進のため、国と連携・調整し、事業の進捗状況や予算措置の状況などを情報共有しながら連絡調整に努めるとともに、復興道路の整備効果の把握・分析を行っています。

また、地域からの課題やニーズ等を踏まえながら、県管理道路の改築整備に向けて必要な調査や計画策定を行っています。

その他、事業の見える化の取組や公共事業の透明性を確保するための事業評価の実施、道路整備に必要な予算を確保するための大会開催や国への要望活動などを行っています。

岩手県道路整備促進 →
総決起大会
(H27.11.9)



← 三陸沿岸道路
「吉浜道路」開通式
(H27.11.29)

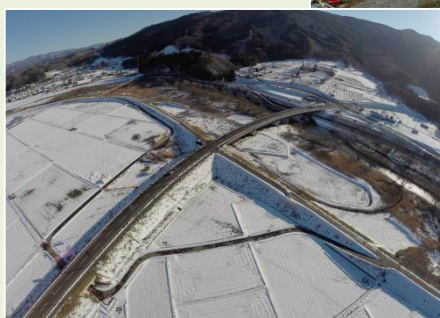
整備担当

本格復興を推進するため、復興道路（県事業）、復興支援道路、復興関連道路、まちづくり連携道路の整備に取り組んでいます。

また、県内各地の交流・連携や観光客の利便性向上のため、主要な観光地間を結ぶ道路や工業団地等が集積する内陸と港湾を結ぶ道路など物流を支援する道路、既存の高速道路を有効活用したスマートインターチェンジなどの整備を進めています。

その他、安全で安心な暮らしを支える救急搬送ルートや高速道路通行止め時の代替道路、必要堆雪幅を確保した道路などの整備を進めています。

(主)二戸五日市線 →
「浄法寺 BP」開通式
(H27.9.19)



←(一)遠野住田線
「新里工区」開通
(H27.12.5)

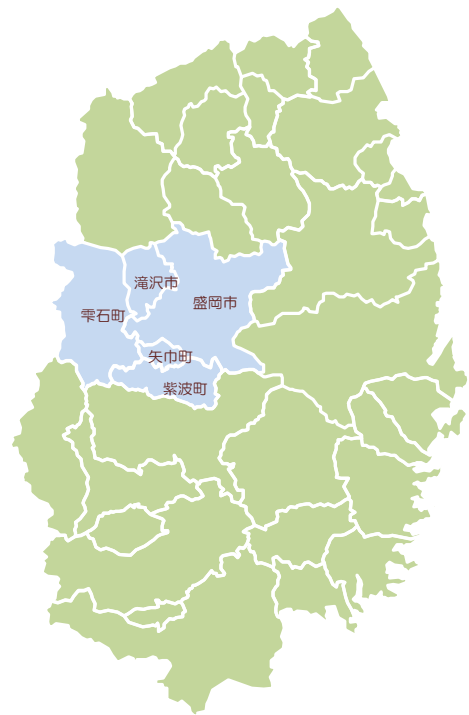
県土整備部の職場紹介 No.3

盛岡広域振興局土木部

地域概要

当部の所管区域は、盛岡市、滝沢市、雫石町、紫波町、矢巾町の2市3町にわたり（建築住宅室は八幡平市、岩手町、葛巻町を併せて所管）、その面積は約 1,984k m² で県全体面積の約 13%を占めています。中核市となった盛岡市及びその周辺地域は県内で最も高い人口集中地域を形成し、人口は約 43 万人で県全体の 1/3 が所管区域に居住しています。

本県の政治・経済・教育・文化の中心的役割を担い、東北新幹線、東北縦貫自動車道の北東北の玄関口として、盛岡駅西口開発、盛岡南新都市開発等による新たな都市軸の形成など、北東北の拠点にふさわしい都市圏としての機能強化が図られています。



組織体制

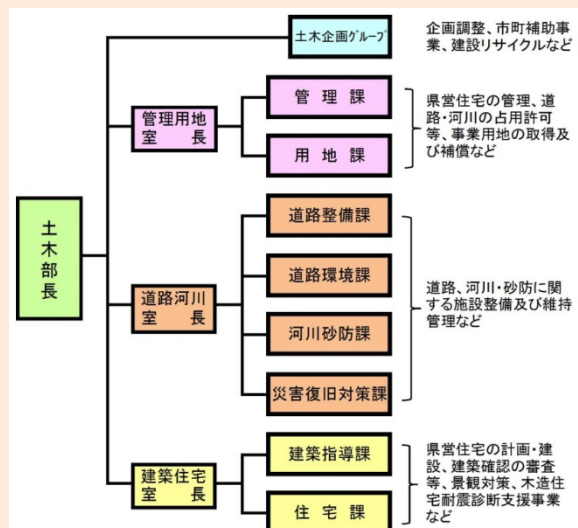
(1) 組織スローガン：

～想いを形に 地域を元気に～

(2) 組織の特徴：

当部には3つの室があるのが組織の大きな特徴で、3室8課、58人の体制となっており、広い分野にわたる公共土木施設の整備、維持、管理及び許認可事務を担当しています。

盛岡合同庁舎の5階西側に事務所があり、事務所がU字の形をしているため、顔を合わせることが少ない職員もいますが、意思疎通を図りながら、県民から信頼される県土づくりを目指しています。



今年度の主な取組

(1) 公共土木施設の適正な管理【管理用地室】

管内における市町村国庫補助事業等の事務指導、県営住宅の管理、屋外広告物の許可、建設業許可・経営事項審査、道路・河川の占用許可等を行っています。

特に県営アパートの管理は、管理棟数 22 棟（全県棟数 65 棟）と県内の3分の1、管理戸数 2,989 戸（全県戸数 5,912 戸）と県内の半数を管理しています。

また、道路占用では、これから予定されている「盛岡さんさ踊り」、「希望郷いわて国体、希望郷いわて大会」に向け、自転車の不法駐輪の取り締まりを実施しています。



① 不法駐輪の現状



② 自転車の移動



③ 移動完了

(2) 矢巾スマートインターチェンジの着工【道路河川室】

県内初となる矢巾スマートインターチェンジ（SIC）を整備しています。SIC とは、ETC 搭載車に限定したインターチェンジで、矢巾 PA からの乗り入れが可能になります。

矢巾 SIC の整備によって、平成 31 年度に移転予定の岩手医科大学付属病院へのアクセスを改善し、搬送時間の短縮による救命率の向上や、岩手流通センターへの物流の効率化が図られるほか、高速道路の利便性向上により地域間交流が活発化され地域振興の発展に大きく寄与するものと期待されています。



平成 28 年 5 月 28 日の着工式の様子

(3) 公営住宅の長寿命化と建築物の防災対策の推進【建築住宅室】

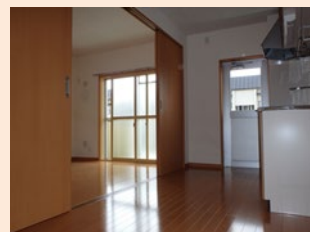
全県下の県営住宅の企画・設計を通して、浴室等設備の改善や床の段差解消等による高齢者等への対応、外壁や屋根などの劣化対策を図ることで、公営住宅の長寿命化とライフサイクルコストの縮減に向けて取り組んでいます。

また、建築基準法、建築土法及び耐震改修促進法に基づく確認や検査など建築物の安全・安心の確保に向け取り組むとともに、県の支援事業を活用した木造住宅の耐震化を促進しています。

4 月に発生した熊本地震への応援として、当部の職員 6 名が応急危険度判定員として現地で活動しました。



県営松園アパート 10 号棟（H27 改修）



改修後の室内

(4) 地域協働による活動

管内で開催される地域活動に職員が積極的に参加しています。

春：滝名川清掃、御所湖周辺統一清掃、盛岡駅前清掃

夏：滝沢砂防公園の草刈、国体おもてなしロード

県南広域振興局土木部と連携して、国体の盛り上げに貢献できるよう、国体競技会場への主要アクセス道路において、機運醸成事業を実施しています。

具体的には、住民と協働で視線誘導標へのマスコットシールの貼付、住民協働草刈用のぼりの製作、住民協働団体用のサインボードの設置などにより国体の PR 活動を進めています。

秋：県庁前中央通りの落葉清掃、御所湖周辺統一清掃



住民協働団体用のサインボード

